

科目名	畜産	単位数	3単位	学科・学年	畜産総合 科 2年
使用教科書	畜産（実教）			副教材等	
学習目標	<p>家畜の飼育や経営に必要な知識と技術を修得します。家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てことを目標に取り組みます。1年から3年生まで分割履修になっているこの科目では、各学年で主に学習する家畜を定め、2年生においては養豚を中心に据え、家畜の学習を進めていきます。</p>				
学習評価	○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。				
	①関心・意欲・態度	動物(家畜)に対する興味関心が強く管理も適切に行える。 遅刻や欠席がなく授業に参加している。 集団のなかで協調性を持って堅実な取り組みができる。			
	②思考・判断	畜産全般に理論づけて理解できているか。 ノートは自分が分かりやすいように整理されているか。			
	③技能・表現	動物に積極的に関わり扱いにも長けている。 質問事項について積極的に発表することができる。			
	④知識・理解	学習した内容が自分のものとして身に付いているか。 実際の現場で学習した内容が活かされているか。			
		評価方法\観点	①	②	③
学習状況観察		◎	○	○	◎
プリント教材		—	—	—	○
ノート提出		◎	○	○	○
定期考査		—	○	◎	◎
履修上の注意	<p>動物の習性や飼養管理技術を総合実習とも絡めて体験的に学習する機会も多いです。去勢や豚肉のカットなどの実技も伴いますので、定期考査や各種提出物のほか、実技への率先した取り組む姿勢も評価します。</p>				

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1	4	養豚 1 ブタの特性	9	肉用家畜としての豚の特徴を学習し、肉資源として有効な動物であることを理解する。	豚の各部名称を覚える。 (小テスト実施) 体重測定と資料摂取量調査を毎週実施し、発育生理を実際に知る。
	5	2 ブタの品種と選び方	14	豚の起源、品種を学習し、交雑種の利点を考える。	
	6	3 養豚の施設・設備とその利用	14	用途別の豚舎構造を理解し適切な一般管理ができるようにする。	
	7	4 ブタの繁殖	10	豚の生殖器の働きを知り、繁殖豚に見合った飼料給与方法と発情の見極めができるようにする。	
2	9	5 子豚の育成	12	適切な子豚ほ育技術を修得する。	雄雌の見極めと去勢を実施。
	10	6 肉豚の肥育	12	飼養管理と肉質の関係を考え適切な飼養方法を知る。	
	11 12	7 肉豚の流通	14	豚価の変動の特徴や流通方法について学び経営診断のできる能力を養う。	
3	1	8 ブタの病気と予防衛生	12	養豚における健康観察の要点と適切な健康管理ができる能力を養う。	豚を使っての検温の実施。
	2 3	9 養豚の経営	8	経営形態を学び、頭数や規模により変わってくる事を理解し、その能力を養う	
			105		



